

1. 事業の目的

東北沿岸は、陸中海岸国立公園をはじめ、多くの自然公園が指定されており、多くの観光客が訪れる。これらの自然公園を「三陸復興国立公園（仮称）」として再編成することにより、地域経済再生のための観光面での貢献を果たすために、本事業において、再編成のための理念、基本方針等を取りまとめたビジョンを策定する。

「東日本大震災からの復興の基本方針（7月29日。東日本大震災復興対策本部）」では、自然の景観、豊かな文化・『食』、国立公園等の地域資源（景観、野生生物、文化等）の活用、防災上の配慮をした公園施設の再整備や長距離海岸トレイルの新規整備等の各種事業を検討することとしている。これらの事項は、国立公園の再編成と密接不可分であり、ビジョンに盛り込む必要がある。そのため、ビジョンの策定に当たっては、前提となる自然環境の被害状況の把握に加えて、これらの地域資源の調査、整備の事前調査及び整備等の方針の検討が必要である。また、地域主体で復興を進めるために、ビジョンの策定に当たっては、地域における合意形成をきめ細かく実施する必要がある。

2. 事業の概要

自然環境被害状況調査、地域資源等（景観、野生生物、文化等）調査、公園施設及び長距離海岸トレイル整備のための調査及び方針の検討等により、三陸復興国立公園（仮称）のビジョンを策定する。

3. 積算

三陸復興国立公園（仮称）再編成のためのビジョンの策定 100百万円

「三陸復興国立公園(仮称)」を軸にした地域の復興

【背景】

■ 三陸海岸の自然環境

- ・傑出した自然景観、海岸美、特徴的な地質
- ・渡り鳥等の野生生物の重要生息地
- ・東北地方太平洋岸には多くの自然公園が指定
- ・多くの観光客が訪れる(国立・国定:約909万人(H19))
- ・津波被害のおきやすい地形

■ 過去繰り返されてきた津波災害

■ 国内有数の水産業

- ・世界三大漁場
- ・地域の基幹産業である水産業



■ 復興に向けた具体的取組

1. 水産振興に役立つ里地・里海型の「三陸復興国立公園(仮称)」への再編成
2. 長距離歩道と復興のシンボルともなる森づくり
3. 被災を記録・継承するための学びの場とモニタリング

■ 新たな公園づくりのポイント

【従来のテーマ】: 三陸海岸の地形・地質、海岸美、野生生物

【新規のテーマ】

- 生物多様性と森・里・海のつながり
- 農林漁業との連携と地域との協働
- 防災との連携と津波経験の継承
- 世界ジオパーク
- 観光振興、エコツーリズム、地元雇用

水産業・防災と連携した
自然公園等による復興への貢献

【参考:これまでの取り組み】

- 陸中海岸国立公園の拡張と名称変更
 - ・国立・国定公園総点検事業(H22.10月、環境省公表)
 - ・地元からも要望あり
 - ・H24年度中の指定を目指していた
- いわて三陸ジオパーク
 - ・岩手県が推進協議会をH23.2月設置
 - ・H24に日本、H27に世界ジオパーク登録を目指していた
- 漁業と連携したエコツアー
 - ・田野畑村を中心に推進されてきた
- 長距離歩道の整備
 - ・岩手県がH22より整備に向けて検討

海岸長距離歩道



南北をつなぐ自然歩道を整備

- ◇沿岸の自然と生活・産業・文化をつなぐ
- ◇災害時には、住民や観光客の防災避難路として活用
- ◇津波の経験を語り継ぐ被災の記録・学びの場